

◎多世代交流の仕組みづくり事業

10月9日（金）、10月15日（木）に、三育学院大学の学生が多世代交流の仕組みづくり事業を「交流サロンかぐや」にて実施しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染予防の1つでもある「手洗い」について、正しい方法を8名の地域住民に実施しました。



▲血圧測定について、学生と住民が話す様子

新型コロナウイルス感染拡大の最中でも感染対策を講じながら、地域住民（多世代）と関わりを持ってないか、学生が考え実施しました。

参加した住民は、体温測定や血圧測定を行い、自分自身の健康状態などを学生と振り返りました。そして、感染対策である「手洗い」の正しい方法の説明を学生から受け、実際に手洗いを行い、手洗後は、正しく洗えているかチェックできる手洗いチェッカーで確認しました。洗い残しが思ったより多く、住民より驚きの声があがりました。

また、住民が昔の町の様子や普段の暮らしぶりを学生に伝えるひとコマもあり、学生にとって町が身近になり、住民と学生がお互いに楽しく学びながら過ごす時間となりました。



▲正しい手洗い方法が記載された手作りチラシ

新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点より今までのように沢山人が集まり、多世代交流を実施することが出来なくなっている中で、感染対策を取りながら、学生と地域住民による多世代交流が図られました。

今後も感染対策を徹底しながら、三育学院大学と協働し、多世代交流を実施してまいります。



▲学生より正しい手洗いについて教わる様子